

その他の建築工事業における掘削用機械を起因物とする死傷災害発生事例（2017年）

2017年発生月	時間	死傷災害発生事例	年齢	労働者規模
1	13~14	私道下水管敷設工事現場において、ミニショベルを操縦し掘削作業を行っている際にバランスを崩してミニショベルが転倒し、地面とミニショベルの間に挟まり負傷する。	46	1~9
5	8~9	病院解体工事の際、バックホー（0.45?クラス）がコンクリート殻を移動しながら集積していた際、バックホーの後方にあったゴミを拾おうとしたのに気付かずにバックホーがバックし、右足の上をキャタピラが踏んでしまった。	44	1~9
5	15~16	木造家屋解体工事の現場にて、解体材の積込作業を重機にて行っていたところ、搬出運搬用のダンプの後方で搬出準備作業をしていた被災者がいたにもかかわらず、重機のオペレーターが後方確認をせずに重機をバックさせたため被災者を倒し、キャタピラで被災者の太ももまで乗り上げ、右もも及び右脛の骨を骨折した。	27	10~29
6	13~14	平屋建鉄骨倉庫の解体工事中、バックホーで、パレット（1.3m×1.3m）に載せた水タンク（1m×1m×1.2m、容量300kg位）を4本のワイヤーで吊り上げた（高さ約1.5m）ところ、落下した。その際、被災者の鼻部に当たり、負傷した。	49	1~9
7	15~16	自社倉庫で作業中、バックホーを移動させ、坂にかかった時にバックホーが上下に激しく揺れ、前方へ飛ばされ頭部より落下した。	52	1~9
10	9~10	PBφ150ガス管新設工事において、被災者が既設管を手握りで確認する際、重機で手前を掘り下げるよう指示をしたが、誤って重機のバケットが被災者の右手甲に接触し、握っていたスコップとバケットの間に手が挟まれ、右手の甲を負傷したものの。	55	1~9

11	16～ 17	放課後等デイサービスの活動中、利用者支援を行っていたところ、利用者同士のトラブルでイライラしていた利用者に体当たりをされて蹴飛ばされた。	23	1 ～ 9
11	13～ 14	置場での重機アタッチメント交換作業中、左薬指を機械に挟み怪我してしまった。	28	1 ～ 9
11	8～9	新築工事の工事現場において、埋戻し用の通路整備作業中、バックホウにて敷鉄板1.2m×2.4m（519×7）を移動しようと、所定の位置に配置する際、敷鉄板右角が先に地面に接触し、その反動で左側が煽られた為、重機オペレーターが立て直そうと一度奥に敷鉄板を寝かす作業を行った。その際、重機オペレーターより被災者が右側に居り、重機ブームと敷鉄板の死角になり、重機オペレーターより被災者が見えていなかった。被災者も危険を感じ後向きに後退したが転倒し、敷鉄板と地山に左足首辺りを挟まれた。	66	1 ～ 9

出典：https://anzeninfo.mhlw.go.jp/anzen_pgm/SHISYO_FND.aspx(職場のあんぜんサイト)

Return to：https://www.jisha.or.jp/international/topics/202206_11.html